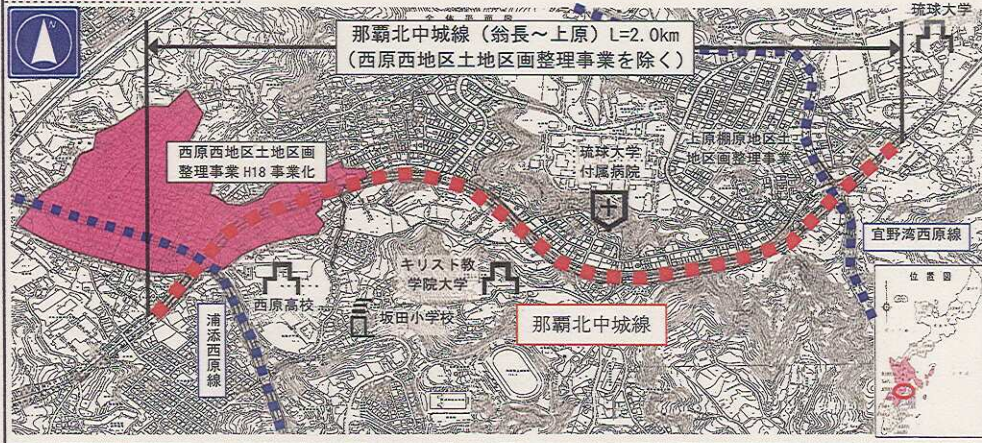


新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	那覇北中城線	事業区分	地方道	事業主体	沖縄県
起終点	自：沖縄県 西原町 翁長（おなが） 至：沖縄県 西原町 上原（うえはら）			延長	2.0 km
事業概要	<p>主要地方道那覇北中城線は、宜野湾市、西原町等の中部地域を南北に縦断し、那覇市、市街地に連絡する延長約20kmの主要地方道であり、事業予定区間は西原町に位置している。</p> <p>現況道路は2車線で、中部地域を東西に結ぶ浦添西原線、宜野湾西原線とそれぞれ坂田交差点、上原交差点で交差し那覇市域へ連絡するネットワークを構成しており、朝夕の混雑とともに新たな市街地の開発も進み、今後とも交通量の増加が見込まれている。</p> <p>当該道路の現道を交通量に対応した4車線に拡幅整備し、当該地域の渋滞緩和及び道路ネットワークの強化を図るものである。</p>				
事業の目的、必要性	<p>那覇北中城線（翁長～上原）は那覇市と中部地域を結ぶ主要幹線道路であるが2車線しかないため、著しい交通渋滞を生じており、市街化に伴い、接続する町道との交通輻輳により交通事故が多発しており、幅員が狭く、渋滞が日常化している現状では第3次医療施設（琉球大学病院）へのアクセスにも支障がある。</p> <p>現況2車線を4車線に拡幅することにより、渋滞の緩和とともに幹線道路のネットワークを整備することができ、周辺道路の混雑緩和にも大きな効果が期待され、第3次医療施設である琉球大学病院のアクセス向上も大幅に改善される。また、4車線への拡幅、交差点の集約、線形の改良により交通事故率の大幅な減少が期待される。那覇北中城線では多量の残土を生じるが、隣接する西原西地区土地区画整理事業(H18 事業化)に時期を合わせ、搬入することにより、運搬距離を大幅に減らし、コスト削減を図ることができる。</p>				
全体事業費	34 億円	計画交通量	23,000台/日		

事業概要図



関係する地方公共団体等の意見

西原町長より平成17年12月2日付で整備に関する要請書が出ており、「文教のまち西原（西原町都市基本計画）」にふさわしい道路整備を求めている。

事業採択の前提条件

・便益が費用を上回っている。・円滑な事業執行の環境が整っている。（平成18年11月30日の県都計審で了承を得て、平成18年12月26日に決定・告示された。）

事業評価結果

担当課：沖縄総合事務局 道路建設課

担当課長名：田中 衛

費対効果	B/C	7.8	総費用：28億円 （事業費：27億円 維持管理費：1.2億円）	総便益：219億円 （走行時間短縮便益：206億円 走行費用減少便益：12億円 交通事故減少便益：1.2億円）	基準年：平成18年	
	感度分析の結果		交通量変動 B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
			事業費変動 B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
			事業期間変動 B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	那覇北中城線の渋滞緩和に貢献（センサス区間 4020） 【渋滞損失時間の改善】約 76.2万人時/年 → 約 33.1万人時/年 【H42年 整備有無】約 112.7万人時/年 → 約 33.1万人時/年 【1kmあたり渋滞損失時間】 約 17.3万人時/年 km（現況） 沖縄県平均：約 4.1万人時/年 km（約 4.2倍） 全国平均：約 2.0万人時/年 km（約 8.7倍） 【渋滞度曲線】直轄国道のキロ当たり渋滞損失時間において、当該区間（4020）が2割区間となっている。 【その他の特徴】 ※データは県内平均・全国平均と比較すること		
		事故対策	○	【死傷事故率】約 88.7件/億台和（現況）（死傷事故率比（県内平均比）1.1 現況） 沖縄県平均：約 77.5件/億台和（約 1.1倍） 全国平均：約 120.0件/億台和（約 0.7倍） 【事故率曲線】沖縄県管理道路センサス区間の上位2割区間に含まれる。 【その他の特徴】 ※データは県内平均・全国平均と比較すること		
	社会全体への影響	歩行空間	○	・沿線に琉球大学や西原高校、坂田小学校、住宅地等が立地、多くの児童、学生等の利用があり、歩行者、自転車の安全を図ることができる。 ・（推計値 歩行者602人、内自転車67人）		
		住民生活	○	・西原西地区区画整理事業、上原棚原地区区画整理事業と一体になった道路整備を図ることにより、学園都市として街づくりを支援することができる。		
		地域経済	○	・首里城や中城公園など主要な観光地へのアクセスが改善され、地域経済を活性化することができる。		
		災害	○	・那覇北中城線（翁長～上原）区間の整備により、第三次医療機関である琉球大学付属病院へのアクセス性の向上、第2次緊急輸送路としての機能を確保することができる。		
		環境	○	・上原交差点、坂田交差点の渋滞緩和により、CO2、NOx、SPM排出量を削減することができる。		
	地域社会	○	・那覇北中城線（翁長～上原）を整備することにより、各地域へのアクセスの向上を図ることができる、西原町等、周辺市町村の地域経済の活性化が図れる。			
事業実施環境	○	・平成18年11月の都市計画審議会にて了承を得て、平成18年12月26日に決定告示された。 ・西原西地区土地区画整理事業との一体的整備効果の早期発現・コスト削減				

採択の理由

・費用便益比が7.7と便益が費用を上回っているとともに、道路整備について地元の合意形成が図られ、事業採択の前提条件が確認できる。
 ・渋滞対策、交通事故の緩和、各地域へのアクセス向上が図られるなど、事業の効果は高いと判断でき、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額から割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。